

就農者講座を開講 1年かけて基礎学ぶ

日本農業新聞掲載：令和7年10月2日（木）

J A東京みなみは9月中旬、日野市の同J A本店で第17期就農者基礎講座の開講式と第1回目の講座を開いた。

組合員ら6人から受講の申し込みがあった。開講式に受講生全員とJ Aの馬場政宏常務、来賓として南多摩農業改良普及センターの小林和郎所長が出席。馬場常務は「農業知識を深めてJ Aに農産物をたくさん出荷し、地域農業を盛り上げてほしい」と期待した。

講座は、就農を予定している人や就農して間もない農業者を対象に、管内の先進農家らが講師となり実習を中心とした講習を1年間通して行う。第17期の受講生は就農して間もない人から、就農して10年以上たつが独学のため基礎を学び直したいという人までさまざま。

1回目の講座は同普及センターの佐々木一総主任普及指導員を講師に迎え、土づくりの基礎・病虫害防除指針の活用について講義した。受講生は「おいしい野菜を作るのに良い土が必要なのは分かっていたが、今まで何気なく肥料や堆肥を使っていた。今後は農産物によって最適なものを検討して使いたい。」と話した。



受講生6人（後列）と馬場常務（左前）と小林所長（右前）（東京都日野市で）